洋上風力発電に関する
地域研究・検討会議

令和８年度　第１回

目次

1. 令和７年度の取組に関するご報告等　P. ２～
2. 令和８年度の主な取組について　P. 20～
3. 国への情報提供について　P. 22～
4. 先進地視察のご案内　P. 23～
5. ＨＰのご案内　P. 25～

１．令和７年度の取組に関する報告等（生物基礎調査）

【調査目的】

〇伊豆諸島５町村の広域的な海域における生物の生息状況等を調査し、今後の環境影響評価に向け、生物基礎情報の収集・整理を行うこと

【調査対象】

〇鳥類・海棲哺乳類・コウモリ類

【調査手法】

	①定点目視観察	②船舶トランセクト調査	③旅客交通船調査	④航空機センサス調査	⑤バットディテクター調査
内容	陸上の定点から沿岸部の鳥類の目視観察を実施	エリアに設定した測線上を船舶で航行し鳥類・海棲哺乳類の目視調査を実施	航行中の旅客交通船上から鳥類・海棲哺乳類の目視調査を実施	エリアに設定した測線上を航空機で飛行し撮影を実施	録音機能付きの機器を設置し、超音波検出によりコウモリ類の生息調査を実施
イメージ					

1．令和７年度の取組に関する報告等（生物基礎調査）

【調査時期】

○１年間で６回の調査を実施（加えて、 ２月に旅客交通船を用いたアホウドリ等の補足調査を実施）

○鳥類の主な対象種と調査時期は、既存文献および有識者からの情報を基に設定しました

○今回は**春季調査（４月）から冬季調査（2月）の結果**について報告します

		2025年									2026年
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2月
主な対象種(鳥類)		オオミズナギドリ カンムリウミスズメ シギ・チドリ類、猛禽類（春季渡り） ウミツバメ類				シギ・チドリ類、猛禽類（秋季渡り） アカコッコ		カモ・カモメ類		アホウドリ類 カンムリウミスズメ	
鳥類 海棲哺乳類 （※）	①定点目視観察（四季）	4/21～24				8/25~28		10/13~16		11/30~12/2	
	①定点目視観察（渡り期）			6/2～6			9/20~24				
	②船舶ﾄﾗﾝｾｸﾄ	4/22,24		6/3,5		8/25,26	9/28,30	10/12,16	11/29,30		
	③旅客交通船	4/26~28		6/1,7,8,10		8/20,22~24,30	9/19,21,22	10/12,17~19		11/29,12/2,6~9	■ ■ ■
	④航空機ｾﾝｻｽ	4/30				8/20			11/7	12/2	
コウモリ類	⑤ﾊﾞｯﾄﾃﾞｨﾃｸﾀｰ			5/20~6/2	7/3~16	8/12~25	9/22~10/5	10/6~21		12/3~16	

※海棲哺乳類の調査は、②③④において鳥類調査と同時に実施

１．令和７年度の取組に関する報告等（生物基礎調査）

【調査結果（鳥類・陸域）】

○検討エリア方向を望む沿岸部の陸上定点（３地点）において、目視調査を実施しました

○**春季調査では41種、春季渡り調査では22種、夏季調査では31種、秋季渡り調査では19種、秋季調査では30種、冬季調査では40種**を確認しました。いずれの調査時期においても、有識者等の情報を基に事前に設定した季節ごとの対象種が確認されました

○沿岸部の陸上定点では、主に洋上から渡ってくる渡り鳥（シギ・チドリ類や猛禽類、小鳥類）やカモメ類などの沿岸性の鳥類が、沖合ではオオミズナギドリの群れが列になって移動・採餌をする様子が確認されました

〈主な確認種〉

目　名	科　名	種　名	春季調査（４月）	春季渡り（６月）	夏季調査（８月）	秋季渡り（９月）	秋季調査（10月）	冬季調査（12月）
アマツバメ目	アマツバメ科	アマツバメ	●	●	●	●		
ハト目	ハト科	カラスバト	●			●	●	●
カイツブリ目	カイツブリ科	ハジロカイツブリ						●
チドリ目	セイタカシギ科	セイタカシギ			●			
	チドリ科	ムナグロ			●			
		キアシシギ			●			
	カモメ科	ウミネコ	●	●				●
	ウミスズメ科	カンムリウミスズメ	●					
ミズナギドリ目	アホウドリ科	コアホウドリ						●
		クロアシアホウドリ	●					●
		アホウドリ	●					
	ミズナギドリ科	オオミズナギドリ	●	●	●	●	●	●
カツオドリ目	カツオドリ科	カツオドリ	●	●	●	●	●	●
	ウ科	ヒメウ	●					●
		ウミウ	●	●	●	●	●	●
ペリカン目	サギ科	クロサギ	●	●	●	●	●	●
タカ目	ミサゴ科	ミサゴ	●	●	●	●	●	●
	タカ科	ハイタカ						●
		サシバ			●			
		ノスリ	●			●	●	●
ハヤブサ目	ハヤブサ科	チョウゲンボウ					●	
		チゴハヤブサ				●		
		ハヤブサ	●	●		●	●	●
スズメ目	ムシクイ科	イイジマムシクイ	●		●			
	ツグミ科	アカコッコ			●			●
	ヒタキ科	イソヒヨドリ	●	●	●	●	●	●

〈確認された鳥類〉

ミサゴ（2025/6/5）

セイタカシギ（2025/8/27）

オオミズナギドリ（2025/9/22）

ノスリ（2025/12/1）

1．令和７年度の取組に関する報告等（生物基礎調査）

【調査結果（鳥類・海域）】

○旅客交通船及び航空機センサス調査より、**春季調査では14種**、**春季渡り調査では12種**、**夏季調査では14種、秋季渡り調査では13種**、**秋季調査では10種**、**冬季調査では23種**が検討エリア周辺海域において確認されました

○伊豆諸島では**利島や御蔵島でオオミズナギドリ**が、**神津島の恩馳島でカンムリウミスズメが繁殖**しており、これらの繁殖期には検討エリア周辺海域においても複数の群れが飛翔・採餌する様子が確認されました

○有識者から「カンムリウミスズメおよびアホウドリ類は2月~3月頃にかけて最も確認される」というコメントがあったため、2月上旬にこれらの種を対象とした旅客交通船による補足調査を実施しました
→調査の結果、カンムリウミスズメおよびアホウドリ科の一種が確認されました

〈主な確認種〉

目名	科名	種名	春季調査（４月）	春季渡り（６月）	夏季調査（８月）	秋季渡り（９月）	秋季調査（10/11月）	冬季調査（11/12月）	補足調査（2月）
カモ目	カモ科	コガモ						●	
アマツバメ目	アマツバメ科	アマツバメ		●	●				
チドリ目	チドリ科	メダイチドリ			●				
	シギ科	アカエリヒレアシシギ			●	●			
	カモメ科	ウミネコ	●	●			●	●	●
		オオセグロカモメ						●	
	トウゾクカモメ科	トウゾクカモメ	●						
		シロハラトウゾクカモメ	●						
	ウミスズメ科	カンムリウミスズメ	●					●	●
ミズナギドリ目	アシナガウミツバメ科	アシナガウミツバメ			●				
	アホウドリ科	コアホウドリ						●	
		クロアシアホウドリ	●	●				●	
		アホウドリ	●					●	
		アホウドリ科の一種							●
	ウミツバメ科	ヒメクロウミツバメ			●				
		コシジロウミツバメ				●			
	ミズナギドリ科	フルマカモメ						●	
		ハジロミズナギドリ				●		●	
		オオミズナギドリ	●	●	●	●	●	●	
		アナドリ		●	●	●			
カツオドリ目	カツオドリ科	カツオドリ		●	●	●	●	●	
	ウ科	ヒメウ						●	●
		ウミウ	●	●	●	●	●	●	
ペリカン目	サギ科	クロサギ			●				
タカ目	ミサゴ科	ミサゴ	●	●	●	●	●	●	●
	タカ科	ハイタカ						●	
ハヤブサ目	ハヤブサ科	ハヤブサ	●				●	●	

〈確認された鳥類〉

カンムリウミスズメ（2025/4/22）

ヒメクロウミツバメ（2025/8/25）

オオミズナギドリ（2025/9/28）

コアホウドリ（2025/11/30）

１．令和７年度の取組に関する報告等（生物基礎調査）

【調査結果（海棲哺乳類）】

〇旅客交通船調査（大島から神津島の間）では、
4月から12月にかけてイルカ類（ハンドウイルカ属等）が50頭、
クジラ類（ザトウクジラ、コビレゴンドウ等）が15頭確認されました

〇神津島の検討エリア周辺海域に絞ると、
イルカ類（ハンドウイルカ属）が23頭（6月:6頭、8月:14頭、9月:3頭）、
クジラ類が29頭（８月:27頭、11～12月:2頭）確認されました

〇春季～秋季の鳥類定点目視観察時に前浜や返浜でイルカ類の群れが確認されました
また、冬季調査では三浦湾展望台からザトウクジラが確認されました

〇有識者から「季節回遊を行うザトウクジラが12月以降、伊豆諸島周辺海域に移動してくる」とのコメントがあったとおり、冬季の旅客交通船調査ではザトウクジラが確認されました

〇2月の補足調査では、神津島周辺海域でザトウクジラは確認されませんでした

〈確認された海棲哺乳類〉

コビレゴンドウ（2025/8/26　船舶トランセクト）

ハンドウイルカ属群れ（2025/9/22 返浜）

ザトウクジラ（2025/11/29　船舶トランセクト）

１．令和７年度の取組に関する報告等（生物基礎調査）

【調査結果（コウモリ類）】

〇2025年5月から12月にかけて、「神津島村役場」と「返浜」にバットディテクターを設置し、コウモリの音声を録音しました

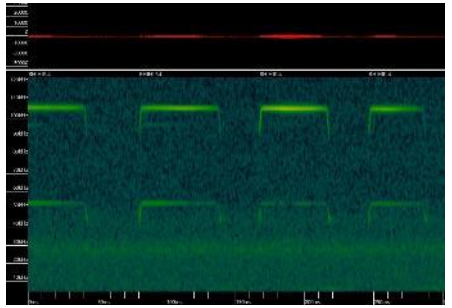
〇音声解析の結果、両地点で**15～30kHz及び30～55kHzのコウモリ目１及び２、キクガシラコウモリ、コキクガシラコウモリ**が確認されました

〇有識者から「伊豆諸島ではコウモリ目１としてヒナコウモリ、ヤマコウモリ、コウモリ目２としてアブラコウモリやユビナガコウモリ、その他キクガシラコウモリやコキクガシラコウモリが確認される可能性がある」とのコメントがあったとおり、神津島ではこれらの種が年間を通じて１回以上確認されました

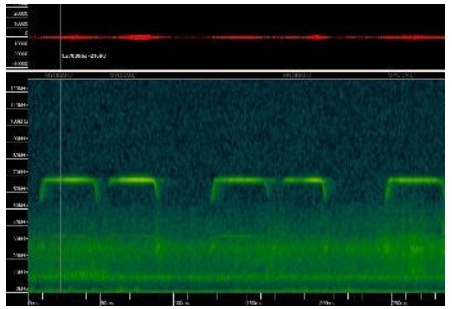
〈コウモリの音声解析結果〉

調査地点名	調査対象区分	2025/5/20 ~6/2	2025/7/3 ~7/16	2025/8/12 ~8/25	2025/9/22 ~10/5	2025/10/6 ~10/21	2025/12/3 ~12/16
神津島村役場	コキクガシラコウモリ			●	●		
	キクガシラコウモリ			●			
	コウモリ目１（15~30kHz）	●		●	●	●	
	コウモリ目２（30~55kHz）			●		●	
返浜	コキクガシラコウモリ		●		●	●	
	キクガシラコウモリ		●				
	コウモリ目１（15~30kHz）	●	●	●	●	●	●
	コウモリ目２（30~55kHz）				●	●	

〈検出された超音波〉



コキクガシラコウモリ（2025/10/3 神津島村役場）



キクガシラコウモリ（2025/8/12 返浜）

１．令和７年度の取組に関する報告（生物基礎調査）

【有識者コメント】

【2026/8/12差し替え】

○４月から２月までの調査結果について有識者に確認いただき、以下のコメントをいただきました

項　目	鳥　類	海棲哺乳類	コウモリ類
有識者所属	日本野鳥の会	早稲田大学／上級研究員	新潟大学／特任助教
調査結果に対するコメント	● 限られた期間・回数の調査ではあるものの、その限りにおいては、**鳥類の季節的な出現状況を把握できており、出現種も妥当**。	● 確認された出現種について、**既存情報と比較しても妥当**。	● 確認された出現種について、**既存情報と比較しても妥当**。
環境アセスメントに向けた課題・留意点	● カンムリウミスズメは繁殖地周辺で夜間に移動することが知られており、環境アセスメントを行う際は**夜間行動についても留意する必要あり**。 ● 鳥類の飛翔高度飛行ルートは、気象条件や海象条件で変化する。洋上の調査は安全上、比較的穏やかな気象・海象条件で実施されるため、荒天時の行動データが不足する傾向あり。環境アセスメントを行う際は、**調査時の天候条件にも留意し、またできるだけ観察頻度を高める必要がある。**	● 本調査結果では伊豆諸島海域において**年間を通じてイルカ類が、冬季以降はザトウクジラが確認**されており、環境アセスメントではこれらの種を評価対象種として選定するのがよい。 ● 環境アセスメントを行う際は、音響調査等により長期的なデータを取得することで、これらの種の海域における**出現頻度や出現時期を把握することが重要**。	● 調査で確認されたコウモリ目１（ヤマコウモリ・ヒナコウモリ）は、洋上を渡って移動する事例が報告されており、移動の際に風車の回転範囲を飛翔する可能性があるため、環境アセスメントを行う際は特に留意が必要な種である。

１．令和７年度の取組に関する報告等（R8事業のご案内）

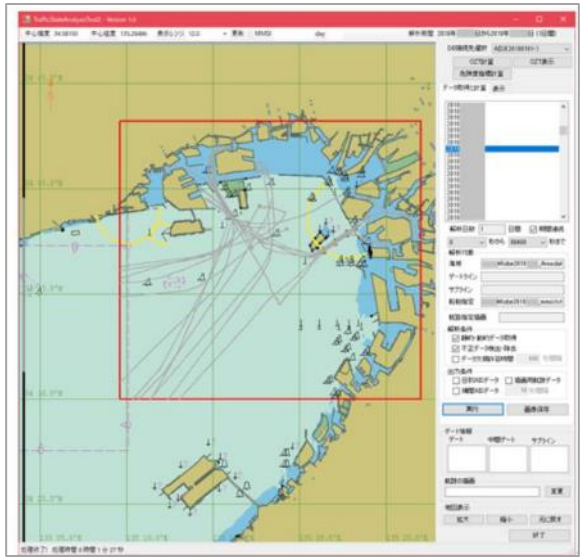
〇令和８年度も、引き続き検討会・住民説明会を実施するとともに、下表の取組を通じて地域の理解醸　成及び検討を深めていきます
ご理解・ご協力のほど、よろしくお願いいたします

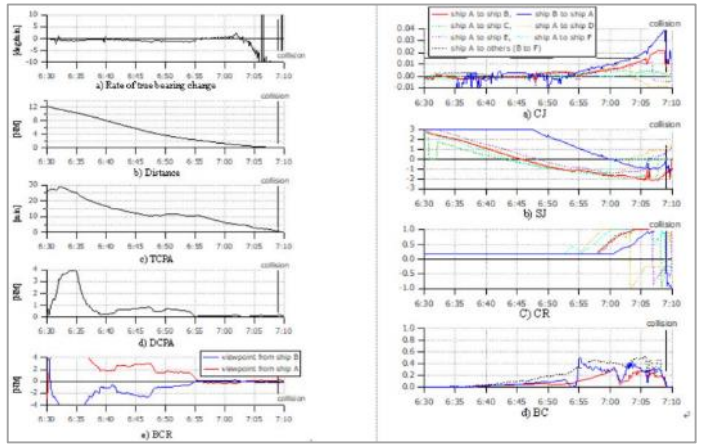
取　組	概　要	時 期（予 定）
展示ブースの設置・運営	島内の複数箇所に洋上風力に関する展示ブースを設置し、無関心層を含む幅広い地元住民へ情報発信を実施	随時（６日間程度）
連載広報の実施	全４回の洋上風力に関する連載広報物を制作し、全戸配布によって地元住民への継続的な情報発信を実施	６月・9月・12月・３月
子ども向けイベントの開催	島の将来を担う子どもたちへの周知を図るため、環境問題や洋上風力についての出前授業及びワークショップを実施	出前授業終了後、ワークショップを随時開催
船舶通航実態調査	伊豆諸島海域における船舶の通航状況を把握し、風車設置後の交通流シミュレーションや課題整理を実施	通年
送電系統に係る調査	ケーブルルート案の検討、用地・地権者情報の整理等を実施	通年

１．令和７年度の取組に関する報告等（R8事業のご案内）

【船舶通航実態調査（イメージ）】

〈AIS（船舶自動識別装置）の解析〉



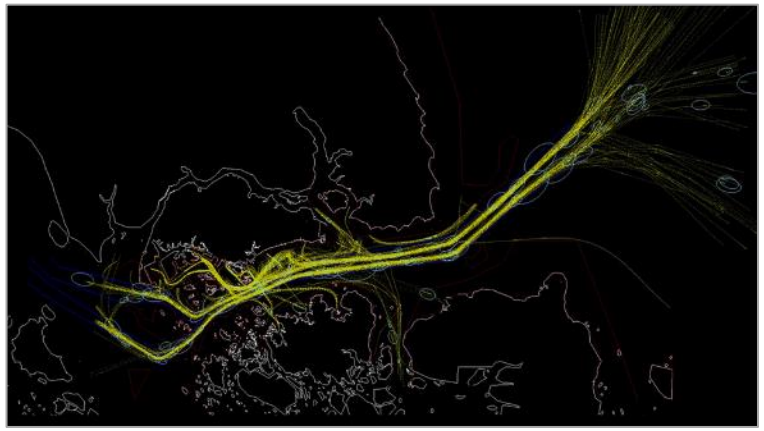


出典：海上技術安全研究所ホームページ
（https://www.nmri.go.jp/study/research_organization/accident/group10_1-ais.html）

〈船舶通航の観測調査〉

出典：株式会社日本海洋科学ホームページ
（https://www.jms-inc.jp/service/maritime-consulting/measure/）

〈船舶交通量のシミュレーション〉



出典：株式会社日本海洋科学ホームページ
（https://www.jms-inc.jp/service/maritime-consulting/analysis/）

１．令和７年度の取組に関する報告等

＜洋上風力の導入で期待されること・心配されること＞

【期待されること：災害時の電源確保】

〈現在の電源〉

伊豆諸島では、島内に設置された「内燃力発電所」（ディーゼル発電）を主な電源として電力を供給しています

〈現状の課題〉

〇燃料(A重油)が海上輸送に依存しているため、天候や海象の影響を受けやすく、**輸送が滞るリスク**があります

〇発電所が海沿いにある場合、南海トラフ地震などによる津波で被災し、**電力供給が停止するおそれ**があります
また、燃料供給元の本土が被災した場合も同様に、**供給が途絶する可能性**があります

〇燃料費や輸送コストが高く、離島特有の**社会的コストが大きくなっています**

〈洋上風力の導入による改善〉

〇燃料に依存しないため、**輸送途絶や燃料不足のリスクを大幅に低減**できます

〇**蓄電池を併設**することで、自然災害時の**バックアップ電源として機能**します

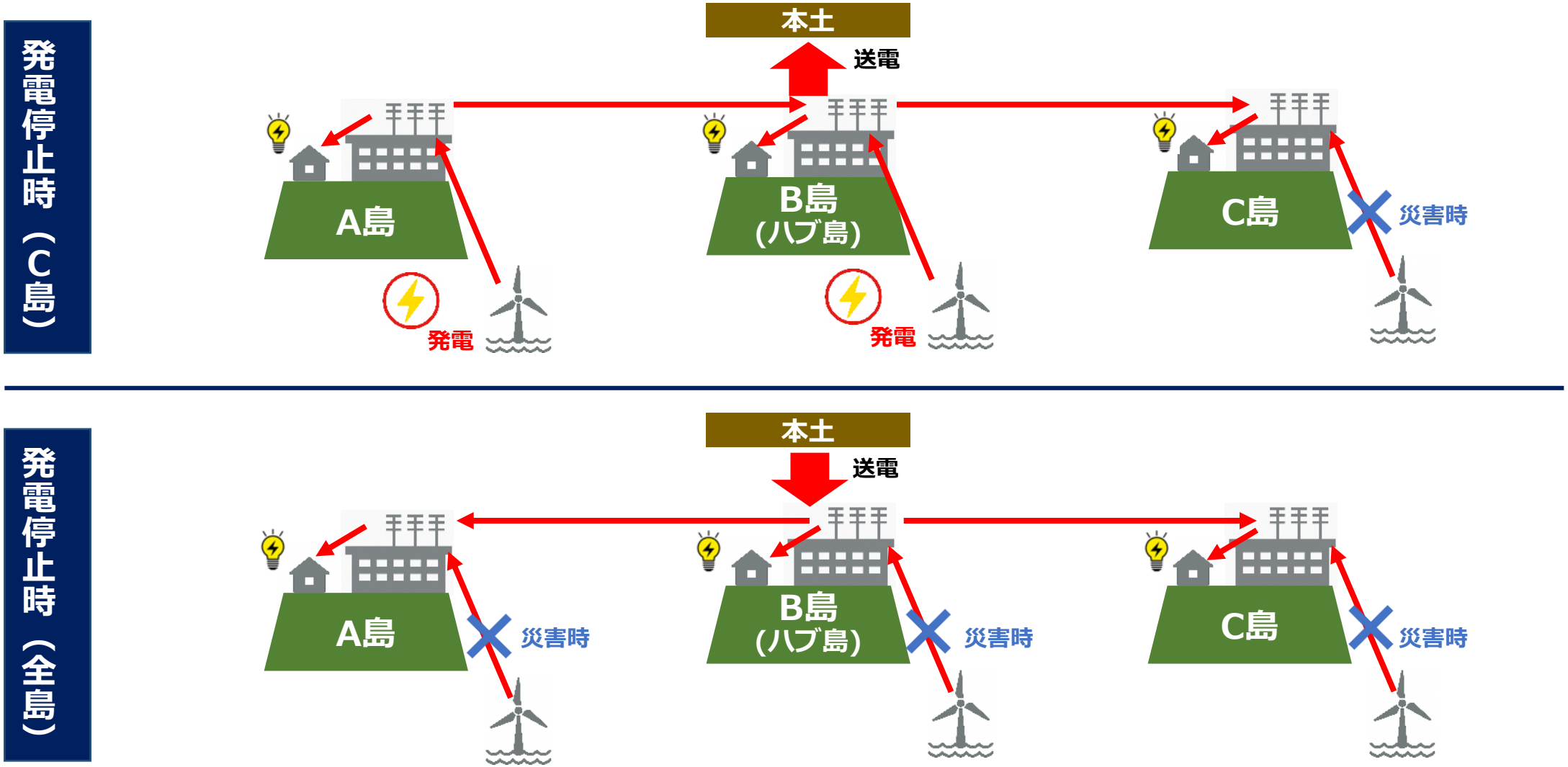
〇海底ケーブルにより各島や本土と連系することで、
電力の相互融通（島間・本土間の相互支援）が可能になります

〇燃料費や輸送コストが不要となり、さらに燃料価格変動の影響を受けなくなります

１．令和７年度の取組に関する報告等

【期待されること：災害時の電源確保】

〈洋上風力導入後のイメージ〉



1．令和７年度の取組に関する報告等

【期待されること：固定資産税収入】

〈洋上風力設備に対する課税制度〉

〇洋上風力で用いる設備（風車本体、基礎構造物、変電設備等）は、**固定資産税における償却資産として課税対象**となります
〇固定資産税は「課税標準額（評価額）×税率（標準1.4%）」で算出されます
〇洋上風力設備による固定資産税収入は、地域住民の生活を支える**幅広い行政サービスの財源として活用**されます

〈固定資産税収入の算出について〉

〇伊豆諸島海域においては、設備仕様・建設費・設置エリア・基数など未確定要素が多く、**現時点で算出することは困難**です

〈山形県による税収額の試算〉

〇酒田市の場合、261.3億円の増収（固定資産税＋法人住民税）が見込まれる一方で196億円の地方交付税が減額されるものの、**20年間では計65.3億円の収入増**になるという試算結果でした

海域	再エネ海域利用法における区域の状況	最大出力	固定資産税収入（20年間）
酒田市沖	**有望区域**	**50.4万kW（18MW×28基）**	**208.7億円（年平均 約10.4億円）**
遊佐町沖	促進区域	45万kW（15MW×30基）	183.5億円（年平均 約9.1億円）

出典：山形県「遊佐町沖・酒田市沖洋上風力発電における経済波及効果の調査結果について」を基に作成

自治体の税収額試算結果（億円）

		山形県	酒田市	遊佐町
増収	法人住民税	22.1	52.6	47.7
	法人事業税	204.9	－	－
	固定資産税	－	208.7	183.5
減収	地方交付税	170.3	196.0	173.4
小計		56.7	65.3	57.8
合計		180		

出典：山形県「遊佐町沖・酒田市沖洋上風力発電における経済波及効果の調査結果について」

１．令和７年度の取組に関する報告等

【期待されること：漁業・地域振興（基金の活用）】

〈洋上風力の基金について〉

〇洋上風力の設置に当たっては、地域との共生を促進するため、発電事業者から**「基金」**が拠出される仕組みとなっています

〇この基金は、漁業環境の維持・改善に向けた取組や、産業・DXの導入支援、教育環境の整備、防災力向上といった地域振興に活用され、これらの取組を通じて**「地域の将来像の実現」**へとつながるものです

〇今年度の検討会で整理した振興策案は、法定協議会が定める「将来像と振興策」となり、発電事業者の提案の基礎となります

〈基金の額について〉

〇近年では、基金額の算定方法として**「発電設備出力（kW）×250円×30年」**が一般的に用いられてます
（15MWの風車を設置した場合、1基当たり3,750,000円/年）

〈漁業・地域振興策例〉

〇漁協への支援（長崎県五島市）

地元漁協に対し「漁船保険・漁船修繕費・漁業用餌代・漁業用燃油（重油／軽油）・共同施設修繕費」の**補助を実施**

〇地域産業の支援（北海道岩宇・南後志地区沖協議会）

地元企業へ洋上風力の情報を積極的に提供し、**新産業の育成や関連産業の雇用確保に向けた取組を支援**

〇子どもたちへの投資・人材育成（長崎県五島市）

地元の中学生に国外の状況を直接体験してもらうキャリア教育を実施し、**子どもたちの将来の職業選択・地域定着を促進**

〇地域の防災力向上への支援（青森県沖日本海(南側)協議会）

地元自治体等による災害時における防災計画に定める指定避難場所等への**電力供給確保に係る検討・計画策定への協力**

1．令和７年度の取組に関する報告等

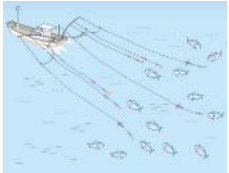
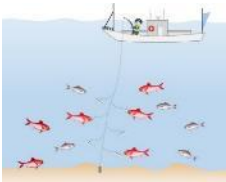
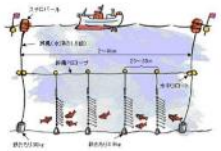
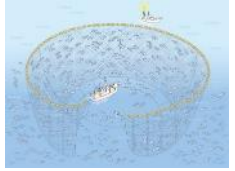
【心配されること：漁業の操業への影響】

〈操業に関わる主な影響と内容〉

洋上風力の設置区域では、風車・ケーブル等の配置により、**漁船の航行や漁具の使用に影響が生じる可能性**があります

例：航行ルートの調整（工事期間中・風車稼働中）、夜間の安全確保　等

〈主な影響（漁法別）〉

	曳縄	イカ釣り	一本釣 たてなわ釣	底立はえ縄	底びき網 船びき網	まき網	はえ縄
漁法							
対象	マグロ、カツオなど	イカ類	キンメダイ、 メダイ、ムツなど	キンメダイ、 メダイ、ムツなど	魚類全般	イワシ、アジなど 魚類全般	カジキ、マグロ類
影響	・区域制限による操業への干渉 ・回遊ルート変化の可能性	光・音・電磁波への忌避や回遊阻害で群れの寄り付きが低下する可能性	・区域制限による操業への干渉 ・回遊ルート変化の可能性	ケーブル・構造物による操業への干渉	ケーブル・構造物による操業への干渉	区域制限による操業への干渉	ケーブル・構造物による操業への干渉

出典：一般社団法人 全国水産技術協会「沿岸域・沖合域における洋上風力発電施設建設に伴う漁業影響調査実施要領」を基に作成

これらの影響を最小化するため、漁業者との協議や検討会、法定協議会を通じて、操業と両立できる海域利用ルールの整理・調整を進めていきます

１．令和７年度の取組に関する報告等

【心配されること：風車の安全性】

〈風力発電設備の事故件数〉

〇国内の風力発電設備での過去10年間（2014～2023年）の事故件数※は、右表のとおりです

※事故件数：電気関係報告規則に基づき事業者が国へ報告した件数

〇年間０～７件程度と非常に少ない水準で推移しており、10年間を通じて大きな増減はありませんでした

〈風力発電設備の過去10年間の事故件数〉

年度	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
件数	1	4	4	0	5
年度	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
件数	4	0	0	0	7

〈風力発電設備の事故要因・傾向〉

〇国内の風力発電設備での過去10年間（2014～2023年）の事故要因及び傾向は、右表のとおりです

〇事故の傾向としては、ブレード損傷や電気設備の不具合といった**局所的な破損にとどまるケースが中心**でした

〇これは、風力発電設備が燃焼設備や高温・高圧の蒸気系を持たず、**爆発や大規模火災につながりにくい構造**となっているためです

〈風力発電設備の過去10年間の事故要因と傾向〉

要因	傾向
自然現象	・最も多い要因 ・強風、落雷、氷雪によるブレード損傷、増速機故障など
設備不備	・次に多い要因 ・ブレード、発電機、冷却装置などの製作不良、部品故障など
保守不備	・一定数発生 ・点検不足による機械部損傷・電気設備故障など
他物接触（鳥獣・飛来物）	少数ながら存在
その他／不明	少数ながら存在

出典：経済産業省大臣官房産業保安・安全グループ電力安全課 独立行政法人製品評価技術基盤機構（NITE）「令和5年度 電気保安統計」を基に作成

１．令和７年度の取組に関する報告等

【心配されること：風車の安全性】

〈参考：秋田市の風車ブレード落下事故について〉

【事故の概要】

〇発生日：2025年5月2日
〇場　所：秋田市新屋町（新屋浜風力発電所）
〇内　容：風力発電設備のブレード1枚が落下する事故が発生

〈事故が発生した風車と、落下したブレードの様子〉

出典：さくら風力株式会社 (株式会社新エネルギー技術研究所) ／株式会社日立パワーソリューションズ
「新屋浜風力発電所 ブレード破損事故に関する報告」

【主な原因（推定）】

2026年1月21日の経済産業省の審議会において原因が示されました
〇**落雷後に運転を継続したことが主因**
〇羽根内部の構造上、雷が逃げず内部で放電し損傷した
（損傷箇所が点検範囲外で、点検では発見できず、その後の運用で損傷が進んだ）
〇**メーカーとメンテナンス会社の情報共有が不十分であった**

【国の対応（案）】

〇即時的な対応(現場レベルの安全確保)
- ✓ 事故と同じ構造上の特徴を持つ風車の調査・安全確保
- ✓ 外から見えない損傷を確認するための検査技術の強化

〇持続的な対応（安全確保への基準・検査体制の強化）
- ✓ 技術基準の解釈を明確化（雷保護の内部構造など）
- ✓ 定期自主検査の方法を明確化（点検範囲の適正化）
- ✓ 安全に関する知見の共有・横展開

1．令和７年度の取組に関する報告等

【心配されること：低周波音の影響について】

〈低周波音とは〉

〇聞こえにくいが、体で感じることもある1~100Hzの低い音のこと
〇特徴：壁・窓を透過しやすい ／ 周囲の環境音に重なりやすい
〇影響：不快感・圧迫感・頭痛・睡眠障害などにつながる可能性

〈環境省による風車の低周波音に係る調査〉

【調査概要】

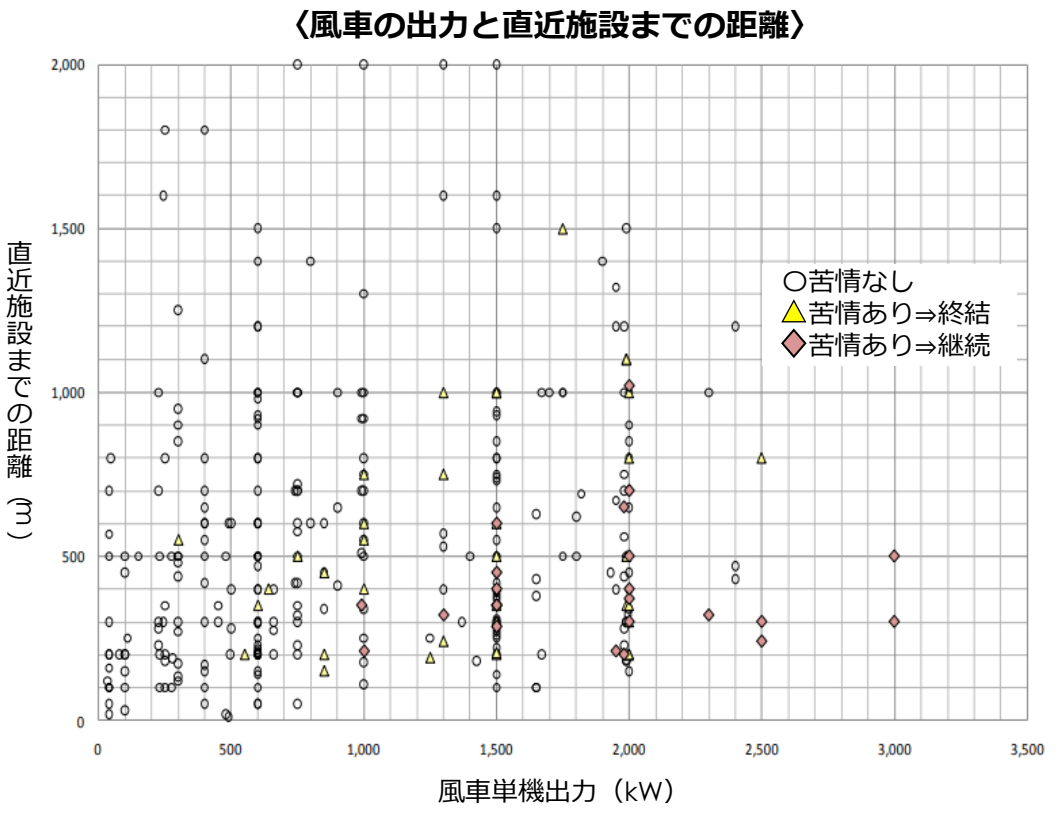
風力発電施設（全国389地点）が設置されている都道府県に対し、騒音・低周波音の苦情の有無に関する調査を実施

【調査結果】

〇苦情なし：325地点
〇苦情あり：64地点（**風車から700m未満が大半、最遠で1,020m**）

【調査結果から分かること】

〇**風車から約1km以内では、風車音の影響が表れやすい傾向がある**
〇風車の出力（大きさ）と苦情の発生は一意に定まらない
（出力と距離の散布図に明確な相関は見られない）
〇**低周波の感じ方は、風向・地形・環境音（波・風）など周辺条件の影響が大きい**

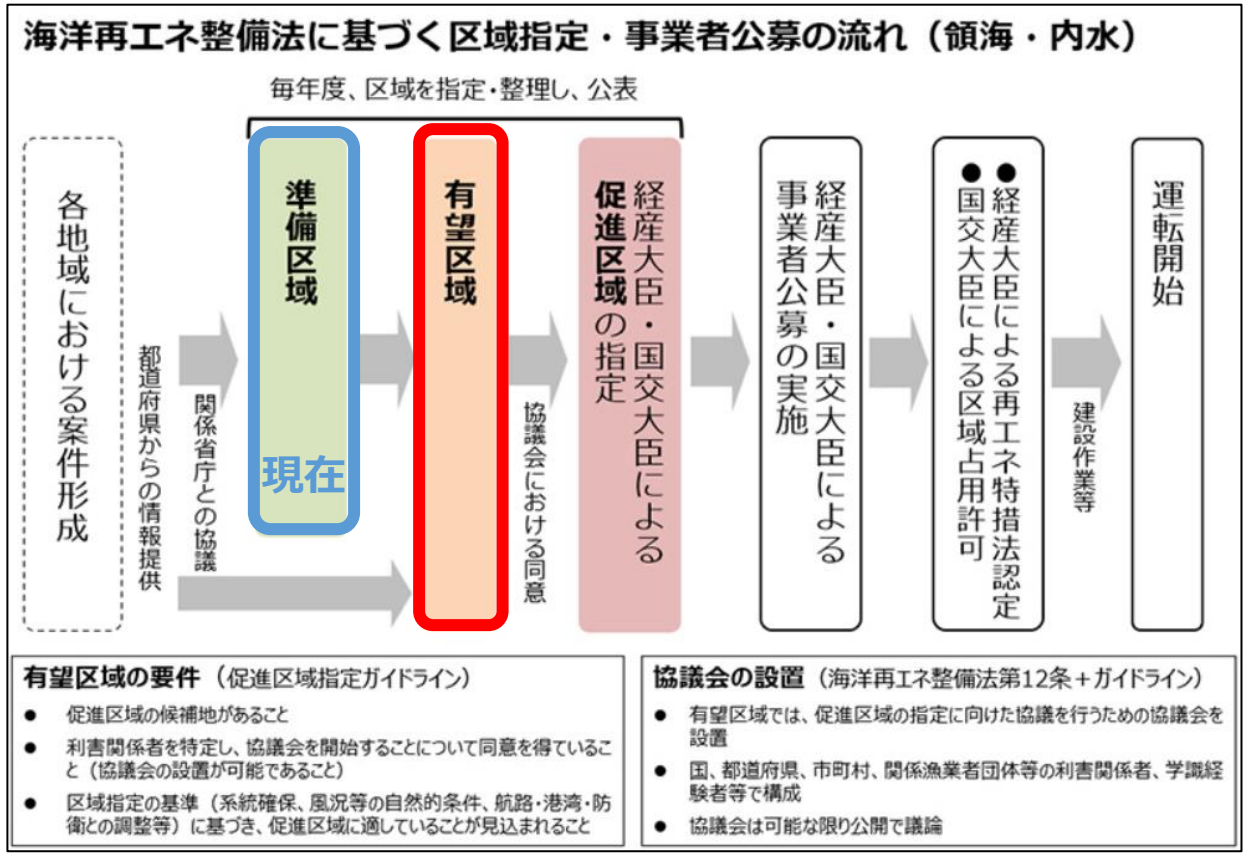


出典：環境省「風力発電施設に係る騒音・低周波音の実態把握調査」（2010年）

【参考：検討エリアからの離隔距離について】 ※離隔距離は現時点での推測値のため、今後変更となる可能性があります

検討エリア（神津島村沖）から陸域までは約2.2km、生活圏までは約4km以上の離隔距離が確保されているため、低周波音の影響はほぼないものと考えられます

1．令和７年度の取組に関する報告等（有望区域について）



出典：経済産業省 資源エネルギー庁HPを基に作成

【会議の運用について】

法定協議会

【構成メンバー】

国／東京都／町村／関係漁業者団体等の利害関係者／学識経験者　等

検討会内での**意見を集約**して、**法定協議会にて報告**

法定協議会内で生じた課題を**検討会で議論**

検討会

【構成メンバー】

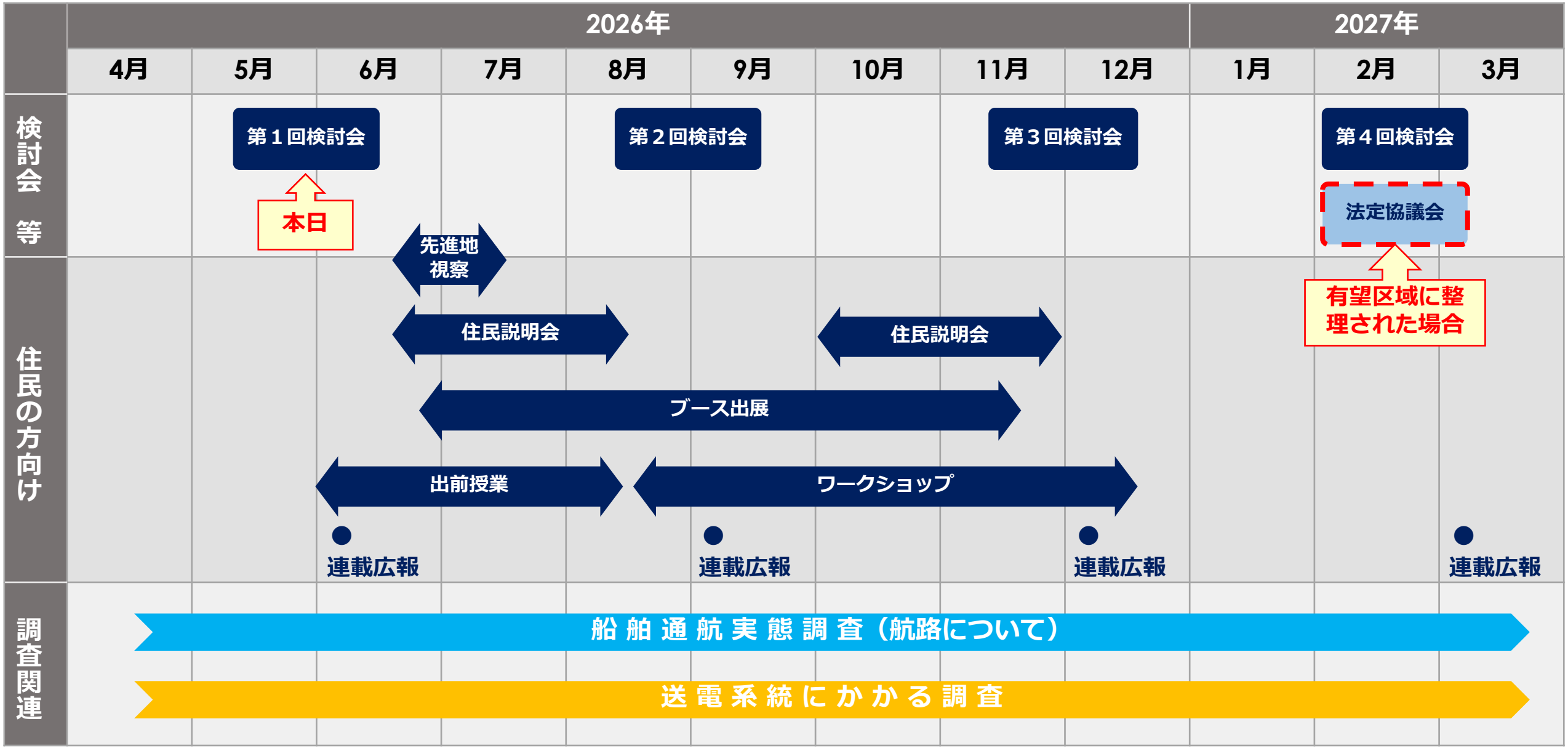
東京都／町村／議会／漁業協同組合／観光協会／商工会／船舶・航空事業者

【準備区域（現在）と有望区域の定義】

〇準備区域とは…都道府県として、今後、協議会を設置して具体的な協議を行うことを念頭に、**利害関係者等との調整に着手している区域**

〇有望区域とは…国が促進区域の指定に関する可否を判断するために**協議会を通じて具体的な協議を行うべき区域**
※**区域整理の時点では発電事業に対する賛否は問わない**

2．令和８年度の主な取組について



２．令和８年度の主な取組について

〇令和８年度も、引き続き検討会・住民説明会を実施するとともに、下表の取組を通じて地域の理解醸成及び検討を深めていきます
ご理解・ご協力のほど、よろしくお願いいたします

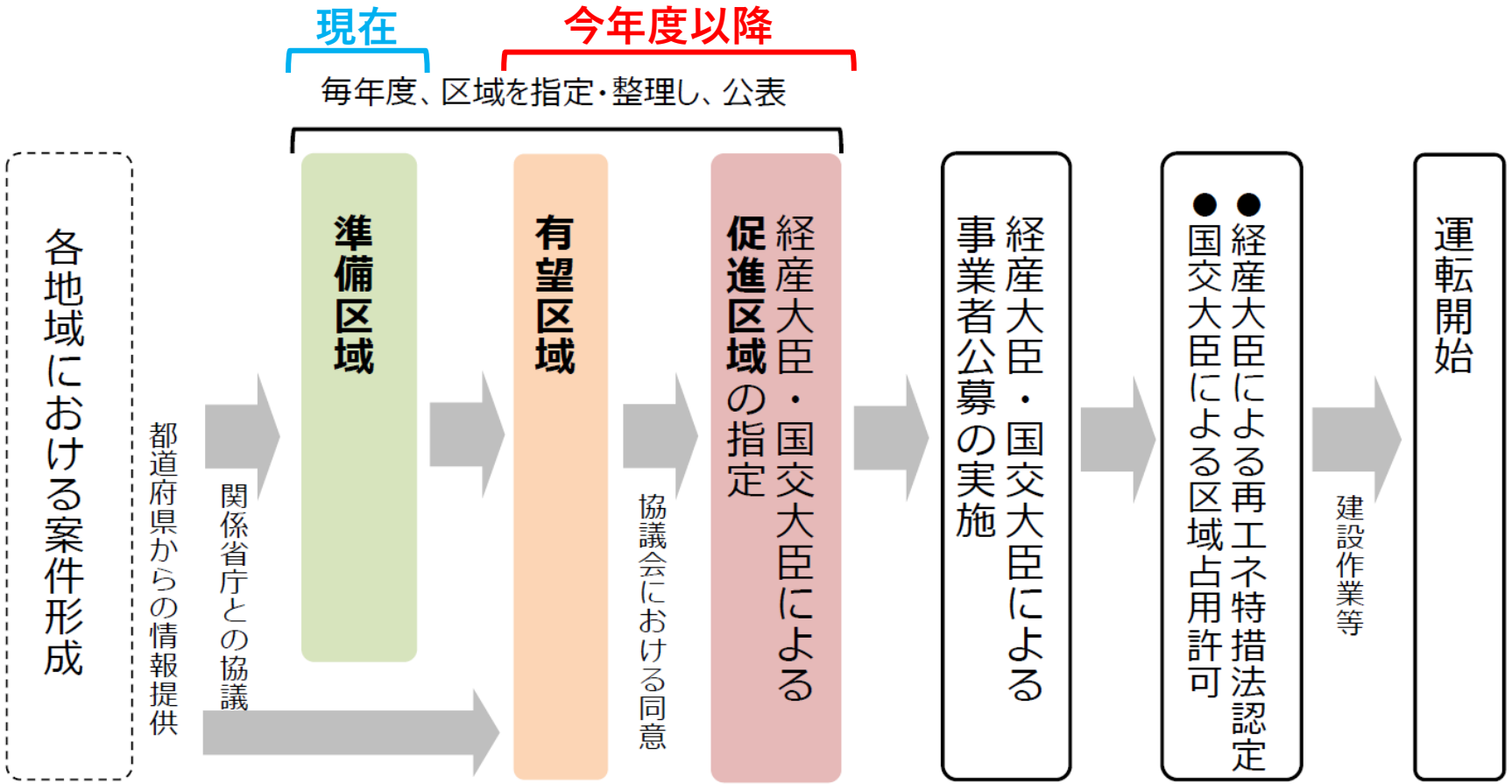
取　組	概　要	時 期（予 定）
展示ブースの設置・運営	島内の複数箇所に洋上風力等の再エネに関する展示ブースを設置し、無関心層を含む幅広い地元住民へ情報発信を実施	随時 （６日間程度/各町村）
連載広報の実施	全４回の洋上風力等の再エネに関する連載広報物を制作し、全戸配布によって地元住民への継続的な情報発信を実施	６月・9月・12月・３月
子ども向けイベントの開催	島の将来を担う子どもたちへ周知するため、環境問題や洋上風力等の再エネについての出前授業やワークショップを実施	出前授業終了後、 ワークショップを随時開催
船舶通航実態調査	伊豆諸島海域における船舶の通航状況を把握し、 風車設置後の交通流シミュレーションや課題整理を実施	通年
送電系統に係る調査	ケーブルルート案の検討、用地・地権者情報の整理等を実施	通年
先進地視察	洋上風力への理解醸成を図るため、漁業関係者・メンテナンス事業者の講話拝聴及び洋上風力の現地視察を実施	6月29日～7月2日

3．国への情報提供について

○ 国から都道府県に対して4月7日に情報提供の受付についての通知あり（６月5日〆切）

○ 区域整理の状況は、例年通りの時期であれば10月頃に公表される見込み

海洋再エネ整備法に基づく区域指定・事業者公募の流れ（領海・内水）



4．先進地視察について

【先進地視察の概要】

○ 視察先　　：長崎県五島市（福江島）
○ 視察時期　　：2026年6月29日（月）～ 7月2日（木）
○ 参加可能人数：各島４名程度
○ スケジュール：次ページ参照

【視察先の紹介】

○ <u>講演</u>
・五島ふくえ漁業協同組合の取組紹介
・風車メンテナンス会社（E-WIND）の紹介
・戸田建設による五島市沖の取組説明
○ <u>洋上風力視察</u>
・浮体式洋上風力発電施設「はえんかぜ」の海上視察
○ <u>意見交換会</u>

出典：一般社団法人五島市観光協会HP

4．先進地視察について

【行程表】

1日目（6月29日（月）：移動日）

時刻	詳細	交通手段
	移動（各島～都内ホテル）	飛行機
18:00	都内ホテル　到着	

2日目（6月30日（火））

時刻	詳細	交通手段
8:30	羽田空港　集合	
9:40	羽田空港　出発	飛行機
12:10	福岡空港　出発	飛行機
13:00	五島福江空港　到着	バス
14:30	講演	
17:45	五島市内ホテル　到着	バス

3日目（7月1日（水））

時刻	詳細	交通手段
9:30	洋上風力視察	船
13:40	五島福江空港　出発	飛行機
15:30	長崎空港　出発	飛行機
17:25	羽田空港　到着	電車
18:30	都内ホテル　到着	
18:45	意見交換会	

4日目（7月2日（木）移動日）

時刻	詳細	交通手段
	移動（都内ホテル～各島）	飛行機

5．ＨＰのご案内

○これまでにいただいた主なご質問等については、皆様が確認できるように東京都環境局HP「洋上風力発電に関するQ&A 」に掲載しており、随時更新していきます。 【2026/8/12差し替え】

東京都環境局HP（https://www.kankyo.metro.tokyo.lg.jp/climate/renewable_energy/offshore_wind）